

私たちのくらしと野生鳥獣の関わり

現在日本の各地で、大切に育てた農作物や長い時間をかけて育まれた豊かな森林が、野生鳥獣に食べられてしまうなどの被害がおきています。ハンターの高齢化、積雪量の減少等の自然環境の変化に伴い野生鳥獣の数が増え、里山に入る人が減り、野生鳥獣が人を怖がらなくなっていて距離が保てなくなり、今では暮らしの身近なところで様々な問題が起きています。



水田でのイノシシによる
ヌタ浴びの被害



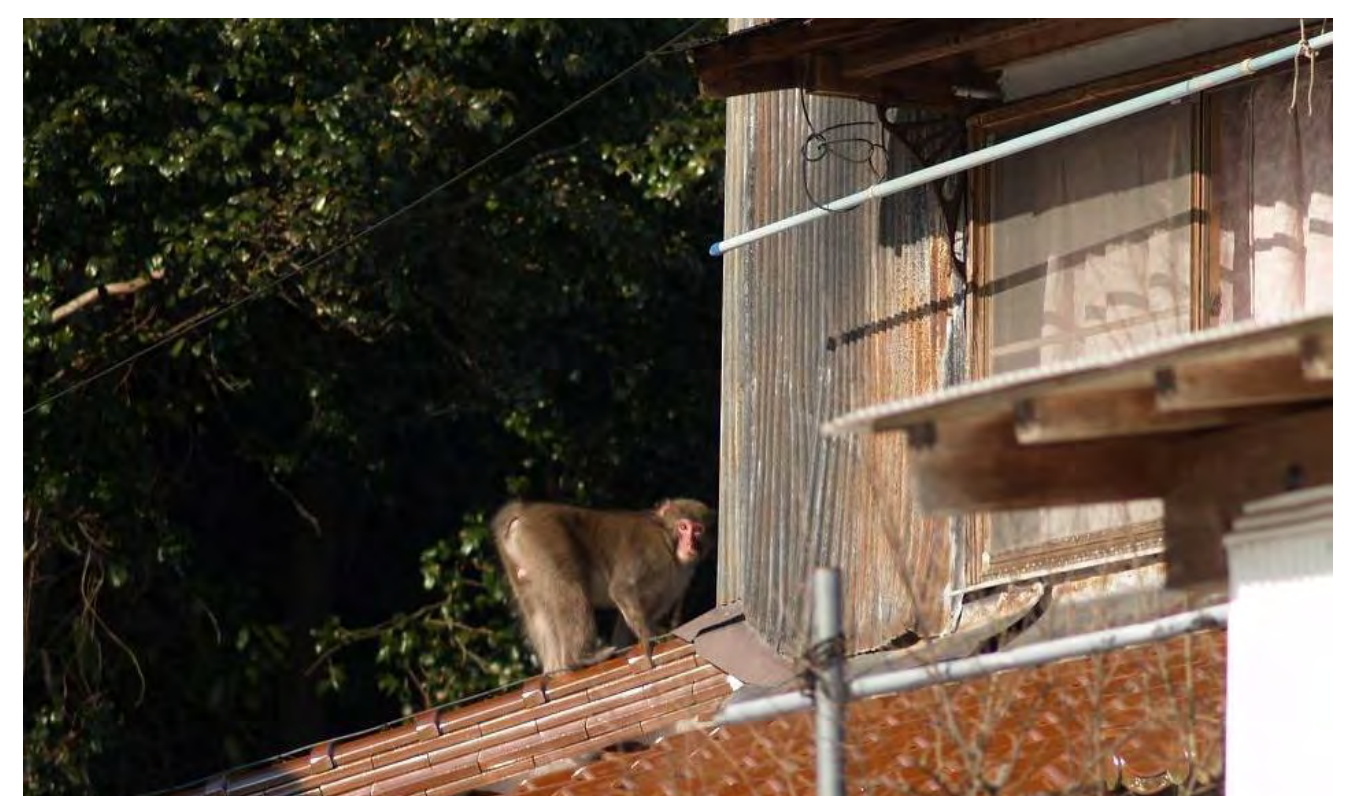
シカによる
スギ若齢林の食害



シカによる大豆の被害
(右が健全、左が被害)
提供元 兵庫県森林動物研究センター



ごみを漁るイノシシ
提供元 兵庫県森林動物研究センター



人家にのぼるサル
提供元 兵庫県森林動物研究センター

ジビエとしての利用

農作物被害を防ぐため柵の整備のほか、毎年多くのシカやイノシシを捕獲しています。従来から、猟師さん達は狩猟を通じて捕獲した鳥獣を自分で利用してきましたが、それを除くと捕獲された個体のうちジビエとして利用される割合はあまり高くありません。

頂いた命を大切に活かせるよう、レストランでジビエ料理として食べたりペットフードや革製品等として活用し、日々の暮らしの中での野生鳥獣との関わり方について考えていきませんか？



ハンターが
捕獲



ジビエ料理

画像提供：ジビエト



ペットフード

画像提供：ジビエト



シカやイノシシの皮を
活用した革製品

捕獲された鳥獣の多くは、埋設・焼却処分